

1. 建物概要

建物名称	ヤマハ発動機株式会社IM事業部新建築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★
------	----------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.9 /5		ふつつ
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.4 /5		がんばろう
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	2.2 /5		がんばろう
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.9 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目		
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.9	
 ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①複層ガラスの採用。 ③ロールスクリーン、小庇の採用。 ④設備配管等は耐久性の高い部材を選定。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥さまざまな樹種の樹木を採用し緑地計画を行った。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率運用) ⑦複層ガラスの採用。 ⑨LED照明の採用。高効率機器の導入。 ⑩エコサバーの導入によるエネルギー管理。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪自動・泡沫水栓・節水型便器(グリーン購入適合品) ⑫躯体と仕上り材が分別可能(LGS)、また再利用可能部材OA707-を採用。 ⑬不活性ガス(CO2)消火設備の導入。 ⑬ODP・GWPが低い発泡断熱材を採用。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭LED照明など省エネ機器採用。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上り材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上り材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔			
	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上			
	LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制			
	LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒			
	LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
	“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	2.4
	 ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰衛生器具でグリーン購入適合品を採用し、節水に努めた。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	2.2	
 ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉔用途変更可能性を考慮し、自由度の高い空間形状とした。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑防犯性に配慮し、視線を遮らないよう緑地計画を行った。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ ⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ			
	Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上			
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	2.9	
 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥さまざまな樹種の樹木を採用し緑地計画を行った。 ■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善) ⑮高さの異なる樹木を選定し、熱的影響の低減を考慮し緑地計画を行った。	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 2 ② ② まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上			
	LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			